

鹿児島の植物 63 **城山周辺でみられる春の植物** 植物担当 久保 紘史郎

博物館の近くにある城山は市街地の中心部にありながら、スダジイやクスノキの大木が多数見られ、希少な植物も数多く生育している貴重な森です。国の天然記念物にも指定されています。その城山周辺でこの時期に観察される、特徴的な植物を紹介します。

ヤブニンジン（セリ科）

日陰に生えるセリ科の多年草で、城山遊歩道沿いには多く見られます。葉の形がニンジンに似ていることから、この名前が付けられました。花序は枝分かかれしており、線香花火のように見えます。

**ヒメキシセワタ（シソ科）**

全体に毛が多く小型なため「姫着せ綿」と言われています。九州内の限られた場所だけに生育しており、個体数は少なく、国の絶滅危惧種に指定されています。城山遊歩道沿いには、多くの個体が群生していますが、このような群生が見られる場所は滅多にありません。

**オドリコソウ（シソ科）**

やや湿った道路脇などに生育します。花の形が、笠をかぶった踊り子に見えることからこの名前が付けられました。かごしま近代文学館裏辺りの山側に群生が見られます。

**ツクシスミレ（スミレ科）**

九州地方だけに生育するスミレで、白っぽい小さな花が特徴的です。森の中に入った城山遊歩道沿いでも見られますが、特に多く見られるのは、森に入る手前、かごしま近代文学館裏辺りの遊歩道沿いです。日本には近い種類はないため、他のスミレとは一風変わった印象です。

生育する場所は限定的なので、目にする機会が少ないスミレの一つです。

